

## 2020（令和2年）規則及び競技者必携の改正

### 【協議運営に関する注意事項】

- P 19 試合中、ベンチ前のキャッチボールを禁止する。  
ブルペンでキャッチボールは2組4名以内を認める。
- P 19 試合開始・終了時の挨拶は試合に敬意を表し、本部役員も全員が起立し挨拶をする。（学童、少年一大会本部及び相手チームへの挨拶は不要、応援への挨拶は奨励します）
- P 25 少年・学童のシートノックは、補助員としてコーチ（背番号28・29）を認める。なお、コーチ一人のブルペン捕手を試合開始までの間許可する（マスク着用すること）
- P 30 学童の投球制限は1日70球以内とする（4年生以下は60球以内）  
中学の投球制限は、1日100球とする。1週間の投球数は350球。  
中学は、県軟野連では令和2年は猶予期間とし、令和3年度より実施する。全国大会などでは、適用されることもある。  
※投球数に達した場合は、その打者が完了するまで投球できる。
- P 33・34  
タイム 監督（コーチ）1試合に投手のもとにいける回数は、3回以内とする。  
監督は、1イニングに2度行けば投手は交代しなければならない。  
守備側のタイムは、1試合に3回以内とする。  
攻撃側のタイムは、1試合に3回以内とする。  
双方のタイムは、取れるが先にとった方より長ければ、双方1回とカウントされる。本年より、延長戦（タイブレーク）は、1イニングに1回とする。
- P 35 投手は、捕手・内野手・審判員からボールを受けた後、走者がいない場合12秒以内、走者がいる場合は20秒以内に投球しなければならない。  
試合のスピード化（試合進行をスピーディに行うこと）
- P 38 サングラスは、本部の承認なしに使用できる。ただし、投手は使用できない。
- P 47 臨時代走者は、試合に出ている9人の中から打順の前位の者。  
ただし、投手を除く代走を認めて、試合を進行する。（注）捕手は、代走者となった。
- P 164 投球の中止・変更  
投手が一度離れた両手を合わせたり、たたいたりすればボーグまたは投手二段モーションで投球すればボーグだったが投球の中止・変更で

はないのでボークではない。ただし、けん制すれボークとなる。

P171 振り逃げの際のジェスチャー（ノーキャッチのジェスチャーをする）

P 80 投手板に触れている投手は塁へ送球するときは、自由な足を必ずその塁の方向へ踏み出さなければならない。

踏み出しとは、つま先が塁へ向いてなくとも投げるときに向くので良い。

踏み替えだけでは塁へ踏み出していくのでボークとなる。

＜注意点＞

ボールケース・ノックなどで地面に置かないこと、肩にかけて運ぶ布製が良い。2020年より捕手用のマスクに「SGマーク」合格品の着用を義務付けられる。なお、2022年から「SGマーク」と合せて「JSBBマーク」が付いている製品が軟式用マスクとして着用可能となる。

P (ページ) は、競技者必携です。

美濃加茂軟式野球連盟 審判部